
告白するつもり

すももっち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

告白するつもり

【Nコード】

N9629M

【作者名】

すももっち

【あらすじ】

告白をしようと思います。

でもうまくいきませんでした。

「好き……な人がいるんだけど」

「は？」

なんとなく書いてみました。

放課後、二人きり、まさしく絶好のチャンス。
神様もわたしを応援してくれてるってことだね。

まあ雰囲気はいつものバカっぽい感じだけど、そんなのはコントロ
ール可能！

いざ！

「バカ下！」

しまった！

いつもの雰囲気だったから、ついいつもの調子で呼んじゃったよ！

お、落ち着けわたし！

平常心平常心……。

舞い降りよ普通……。

「あ？なに突然、そんな大声で……」

お前も普通に対応するなよお！

あー違う！

平常心平常心へいじょーしん……。

「坂下！」

「おわつ、なんなんだよ……」

「す、すすす……」

「？」

頑張れわたし。
いける。

言え。
言え！

「好き」

「は？」

「……な人がいるんだけどさ……」

……て、わたしのバカー！！

違うだろーがぁー！！

と冷や汗タラタラながらも訂正する勇氣は湧いてこない。

でも……。

だつてさ……。

しょーがないじゃん。

坂下の気持ちが表情で分かっちゃったんだもん。

突然真剣な顔して何を言うかと思つたら……。

「好きな人がいるんだけど」

つてオイ。

なんだ、その大々的で無駄な宣言は。
相変わらず変わった奴だよなあ。

「………で？」

「……えっと、だからぁ……」

「だから？」

「だから……、その……」

「その？」

「……察しろよ！」

「逆ギレかよ！」

なんで俺キレられてんの？

そもそも話を振ったのは新田の方じゃなか。
ワケわかんねえ……。

「相談とか？」

「え？あ、そうそう！相談とかしたいの！」

めちゃくちゃ怪しいんだけど……。

その辺自覚ねえんだろうなあ……。

いろいろ表情でダダ漏れ。

こうなっちゃってしまっただけ、もう話を突き通すしかない。

つつたって、相談なんて……。

何聞けばいいの！？

「た、例えばさあ」

「例えば？」

「例えば……。すごい可愛くて、モロ好みの子が告白してきたとしたらさ、好きな子がいても付き合う？」

そんで何聞いちゃってるのよー！

頭の回転悪いから仕方ないとは思っけど！
もうちょっと他になかったの、わたし！

「……それ聞いて参考になんのかよ」

「……なるんじゃないの」

「投げやりだなオイ……」

こっちだってワケわかんないんだって……。

そもそもね、坂下が察しないから悪いんでしょ？
気付よ少しは！

と、自分でも理不尽だと思う怒りを坂下に向ける。
バカ下で十分だ、やっぱり。

「まあ、付き合うかも」

「うそっ」

「だってモロ好みだし。早々モロ好みの子に告白なんかされねえし」

爆弾だ……。

わたしを地中海にまで埋めるほどの爆弾投下だ……。

地中海がどれくらい深いかわからないけど。

実は結構わたしの恋心って望み薄なの？

「いや、状況にもよるけどな？片想いだったら付き合うけど、両想
いってわかってんだったら、当然振るだろ」

「……彼女欲しいだけじゃん」

「ばあか、全然ちげえよ。俺って恋愛に関しては根性ねえし、ガツ
ガツ頑張るのってキライだろ？だから片想い無理なんだわ。でも気
持ちって簡単に変わったたりしねえから、モロ好みの子で傷を癒して
もらおうって魂胆なわけだ」

「……なんかスゴいっばいけど、結構サイテーなことやってない？」

「サイに手がどうした」
「最ッ低」

坂下のバカさ加減で好きの気持ちを見失いそうだ。

つーかなんだこの相談。

もはや理解不能な質問だろ。

しかもなんか「打ちのめされた！」みたいな顔してるんだけど……。

「……結局お前は何が言いたいの」

「……」

「オイ」

「……」

「おい」

「……」

はぁ……。

そんな赤だか青だかわからん顔色されてもな……。

「……察しろよ」

新田はまたぼつりと呟いた。

泣きたくなった。

坂下のバカさ加減にはもちろん、告白すらできない自分の勇気のなさがない。

坂下の好みのタイプじゃない、ただか女友達の一人のわたしが、何が出来るって言うんだ、今のこの状況で。

「だったらお前も察しろよな」

「はえ？」

何をですか？

つか何がですか？

つかなんなんですか？

「俺、今フリーなわけ」

「……知ってるけど」

「かれこれ一年はフリーやってんの」

「……だから知ってる」

「でも一年前まではフリーの時はなかった。相手は変わってたりするけど」

「……だから何」

「でも今はフリー。告白されるけどフリー。罪作りの男だとはわかってるけどフリー」

「自慢とかどうでもいい」

「……って終わりかよ！」

それだけの情報でわたしに察しろと！？

無茶苦茶だなお前も！

一年前に何かあった、みたいな言い方だけど……。
わからん。

つつか一年前とか昔すぎてわかんないんだけど。

「全然わかんない」

「俺は片思いできない。でもフリー。つまり？」

「……つまり、」

両思いがわかってたってこと？

一年前から？

「……」

「……」

「……」

「……」

「……誰と？」

「たつぷり溜めてその反応か！期待を裏切らないというか、俺の心はズタズタというか……」

いや、だって……。

流れるにわたしかなくて思ったけど……。

全然気付かなかったし……。

「さつき、スゴい変な顔したじゃん……」

「変な顔？」

「わたしが好きって言ったらさ、こう……、ここにシワとか寄せちゃって」

人差し指で眉間を指さす。

「そりや変な顔もしたくなるだろ。一年越しで突然だぞ？なんでこのタイミングなんだよ。いろいろ想像してた俺の身にもなってみろ」

つまりわたしが悪いのかよ……。
いいや、違うね！

「今まで気付いてて言わなかったバカ下が悪い」

これが単なる照れ隠しだということも、坂下にはお見通しなんだろう。

お前がわたしに夢中ってこともお見通しだけだねっ！

「……す……す……」

「ん？」

「す……」

「うんうん」

「すき……」

「お」

「……かしんない、でもないかもしれない」
「ワケわかんねえ……」

素直に言う勇氣は未だ出ないんだけど。
でも伝わってるなら、それもアリ？

（後書き）

この後二人は付き合ったとか付き合わなかったとか……。

てかね。

坂下気付いてたんなら自分から言えよ！ヘタレか！
てお話でした。

ほのぼのくすってもらえたら嬉しいです。

感想などお待ちしております。

読んでいただき、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9629m/>

告白するつもり

2010年10月12日03時42分発行